分野	33	生涯学習･文化･スポーツ
施策	332	文化･芸術の振興
5年後の目標		ふるさとの文化･歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

概要

	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目				決算額(円)	担当課
		会計	款	項	目		
P（概要）	**文化･芸術のまちづくり事業**	一般	10	4	8	5,181,964	**文化･スポーツ振興室**

事業の概要

文化･芸術の一層の推進を図るため、文化イベントの開催及び運営支援を行います。また、「長岡京音楽祭」を、多様化する市民の文化･芸術ニーズへの充実を図るため見直し、市民の関心が高まる事業展開を図ります。

平成28年度の取組

D（取組）

指標		長岡京芸術劇場の事業数･入場者数				単位	事業
							人
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	31	32	
平成28年度新規事業（参考:長岡京音楽祭 6事業　3,295人）	目標	14	16	18	20	22	
		8,500	9,500	10,500	11,500	12,500	
	実績	15					
		9,864					

・市民に質の高い文化・芸術に触れる機会、参加する機会、集う機会を提供し、市内で行われる文化・芸術活動が一体感をもって開催されることを目指して、新たな文化・芸術にまちづくり事業として「長岡京芸術劇場」を始めました。
・６月11日に「長岡京芸術劇場」事業のスタートとして駅前広場コンサートを開催しました。
・長岡京芸術劇場実行委員会が主催する「長岡京芸術劇場」６公演に支援を行いました。

施策の「5年後の目標」に対する評価

平成28年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向･トレンド	対応頁
	―	―	―

達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・長岡京芸術劇場実行委員会が主催する公演、駅前広場コンサート、文化奨励事業補助金交付事業を「長岡京芸術劇場」事業として実施し、目標を達成することができました。
課題等	・長岡京芸術劇場実行委員会が主催する「長岡京芸術劇場」公演の中でも、入場者数が多くない公演への集客が必要です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	・長岡京芸術劇場実行委員会が主催する「長岡京芸術劇場」公演をより一層ＰＲし、市内及び市外からも公演の入場者を募ります。 ・文化奨励事業補助金交付事業以外にも市内で行われる文化・芸術事業に「長岡京芸術劇場」の冠をつけてもらい、「長岡京芸術劇場」をＰＲしていきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ
施策	332	文化・芸術の振興
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

概要

	実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
		会計	款	項	目		
P（概要）	**長岡京記念文化会館運営支援事業**	一般	10	4	8	84,000,000	文化・スポーツ振興室

事業の概要

長岡京記念文化事業団に対し運営支援を行い、質の高い舞台芸術の提供と充実を図ります。また、京都府に対して長岡京記念文化会館の機能充実を求めます。

平成28年度の取組

指標	長岡京記念文化会館（ホール）入場者数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	31	32	
97,405（平成26年度）	目標	98,500	99,500	100,500	101,500	102,000	
	実績	77,736					

D（取組）

・１月中旬から年度末まで、空調工事の為、臨時休館となっていました。
・臨時休館となっていた期間を除いたホールの使用率は、63.5%となっており、前年度の使用率61.7%を上回っています。
・自主事業、民間文化団体との共催事業及び貸館事業の他に、昨年度までの「長岡京音楽祭」を改め、市民に質の高い文化・芸術に触れる機会、参加する機会、集う機会を提供し、市内で行われる文化・芸術活動が一体感をもって開催されることを目指して、新たに長岡京芸術劇場実行委員会が主催する「長岡京芸術劇場」を始めました。

施策の「5年後の目標」に対する評価

平成28年度の達成状況

C（評価）	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		―	―	―
	達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・１月中旬から３月末まで臨時休館となっていたため、目標値に届いていませんが、１月から３月も休館せず、例年どおりの入場者数があれば目標達成できていた状況です。
	課題等	・入場者数の更なる増加を図るため、自主事業及び「長岡京芸術劇場」の集客をする必要があります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）	方向性	対応策等
	1：計画通りに進めることが適当	・長岡京芸術劇場実行委員会が主催する「長岡京芸術劇場」公演の更なるＰＲを図り、市内及び市外からも公演の入場者を募ります。

分野	33	生涯学習･文化･スポーツ
施策	332	文化･芸術の振興
5年後の目標		ふるさとの文化･歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
文化活動推進･支援事業	一般	10	4	8	2,954,000	文化･スポーツ振興室

事業の概要

生涯学習や文化芸術への関心の増進と交流を図るため文化団体の文化･芸術活動を推進し、活動支援を行います。

平成28年度の取組

D（取組）

指標	文化まつり等文化団体事業における参加者数（出品者･出演者･鑑賞者）					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	31	32	
9,505（平成26年度）	目標	10,200	10,300	10,400	10,500	10,600	
	実績	9,752					

・名月の宴（９月）、市民文化まつり（10月）、長岡京展（３月）等を主催している長岡京市文化協会に対し、補助金の交付及び活動支援を行いました。

施策の「5年後の目標」に対する評価

平成28年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向･トレンド	対応頁
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・長岡京市文化協会会員の高齢化が進行し、各事業への出品者・出演者数が減少傾向にありますが、「名月の宴」は、観光情報誌に掲載されるなど、市外からも鑑賞者を集めています。
課題等	・長岡京市文化協会会員の高齢化の進行に伴う、会員数の減少及び各事業への出品者・出演者数の減少傾向に歯止めをすることが課題となっています。		

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・会員の減少に歯止めをするため、新たな団体の加入の働きかけを支援します。 ・各事業の出品者・出演者数の減少傾向に歯止めをするため、ＰＲを強化することや、会員及び会員以外の出品者・出演者を募ることを支援します。 ・事業の鑑賞者を増やすため、より一層のＰＲを支援します。

分野	33	生涯学習･文化･スポーツ
施策	332	文化･芸術の振興
5年後の目標		ふるさとの文化･歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
埋蔵文化財調査センター及びふるさと資料館の検討	一般	10	4	5	45,136,000 12,397	生涯学習課

事業の概要

蓄積された長岡京跡の発掘調査成果を整理及び研究し、その成果を広く展示、公開する場としての埋蔵文化財センターの今後と（仮称）ふるさと資料館基本構想に基づく整備検討を併せて行います。

平成28年度の取組

D（取組）

指標	埋蔵文化財センターの啓発事業参加者数					単位	人
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	31	32	
3,600（平成26年度）	目標	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	
	実績	2,657					

・埋蔵文化財調査センターで常設展示、特別企画展「古墳時代のムラ」、まいぶんミニ展示「古墳の写真展」「酉、鳥、トリ」を開催し、入館者は延べ1,149人でした。
・小学５年生から中学生が対象の夏休み歴史教室「盾形埴輪を作ろう！」を開催しました。
・発掘調査現地説明会（２回）、文化財講演会（２回）、調査成果報告会、スライドでみる乙訓の発掘、乙訓古墳群史跡指定記念シンポジウムなどを開催しました。
・自治会やふるさとガイドの会などの依頼により、センター職員を講師として派遣しました。
・中学生の仕事体験学習の受け入れや小学生の発掘調査見学を行いました。
・京都府下の博物館等との相互連携を密にするため、京都府南部地域ミュージアム連絡協議会と京都府ミュージアムフォーラム（仮称）に参加しました。
・埋蔵文化財センターの今後と（仮称）ふるさと資料館の整備について、庁内で公共施設の再編検討と合わせて情報共有を行いました。

夏休み歴史教室の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

平成28年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向･トレンド	対応頁
	―	―	―

達成度合	C：目標の一部を達成できなかった。	達成状況	・啓発事業について、乙訓古墳群の国史跡指定に合わせたシンポジウムを行うなど時機に合わせた工夫を行いましたが、全ての事業の参加者数が目標人数に到達しませんでした。 ・庁内での公共施設の再編検討に際して埋蔵文化財センター及び（仮称）ふるさと資料館基本構想について情報共有を図りましたが、具体的な検討には至りませんでした。
課題等	・学校、自治会（生涯学習推進委員）、市内団体などとの連携により、歴史・文化に関心のある層を増やす取り組みが必要です。 ・発掘調査で出土した文化財の収蔵スペースの確保や、調査・研究の成果を広く展示・公開する場の整備が必要です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・埋蔵文化財調査センターの今後と（仮称）ふるさと資料館の整備検討について、公共施設再編の進捗に合わせて、実現可能な案を検討していきます。

分野	33	生涯学習･文化･スポーツ
施策	332	文化･芸術の振興
5年後の目標		ふるさとの文化･歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
史跡等整備･活用事業	一般	10	4	5	4,417,390	生涯学習課

事業の概要

平成26年度に開園した史跡恵解山古墳公園を広く市民が利用できるよう充実を図ります。また、平成27年度に国の史跡として指定された「乙訓古墳群」の公有化と整備を行い「悠久の都」としての長岡京市の認知度を高めます。

平成28年度の取組

D（取組）

指標		乙訓古墳群の利活用及び整備の進捗状況				単位	―
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	31	32	
乙訓古墳群の国史跡指定（平成27年度）	目標	乙訓古墳群公有化着手	乙訓古墳群保存整備基本構想検討委員会設置	乙訓古墳群保存整備基本構想の検討	乙訓古墳群保存整備基本構想の検討	乙訓古墳群保存整備基本構想の策定	
	実績	乙訓古墳群公有化着手					

・恵解山古墳保存・活用検討懇話会を２回開催し、恵解山古墳公園をどのように利活用していくのかについて、関係団体や近隣の学校と意見交換をしました。
・乙訓古墳群史跡指定記念シンポジウム「乙訓古墳群とは何か！？」を９月10日に中央公民館で開催し、市民を含め多くの来場者に史跡の価値や重要性を啓発することができました。
・乙訓古墳群として国史跡指定された井ノ内車塚古墳と井ノ内稲荷塚古墳について、公有化の準備のために、各史跡の測量を行いました。

恵解山古墳公園でのたけのこ堀り体験

施策の「5年後の目標」に対する評価

平成28年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向･トレンド	対応頁
	―	―	―

達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた（目標の100%以上）	達成状況	・恵解山古墳に残された竹林で小学生のたけのこ堀り体験をしてもらうなど、子どもの体験活動のスペースとして活用できました。 ・恵解山古墳から出土した埴輪が全国を巡回した「発掘された日本列島展」で展示され、恵解山古墳の名前を広めることができました。 ・恵解山古墳公園の利用促進のための懇話会において市民や学校とともに課題等を検討しました。
課題等	・恵解山古墳だけではなく、井ノ内車塚古墳や井ノ内稲荷塚古墳など、乙訓古墳群として史跡指定された他の遺跡についても、市民の学習や憩いの場にできるように、整備や活用について検討を進める必要があります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・国指定の史跡となった遺跡の整備を順次進めていく必要があります。そのために所有者との話し合いや学識経験者との話し合いが必要です。また、同時に整備後にどのように管理・活用していくのかということも考える必要があります。

分野	33	生涯学習･文化･スポーツ
施策	332	文化･芸術の振興
5年後の目標		ふるさとの文化･歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
歴史資料活用･保存事業	一般	10	4	5	4,574,021	生涯学習課

事業の概要

歴史資料の損失･散逸を防ぐため、市内の未調査の歴史資料を収集･調査、保存･活用に取り組むと同時に調査済みの歴史資料の補充調査を行います。
また、中野家住宅の歴史資料の収集･整理･調査･保存を行うとともに、市民に対して収集した歴史資料及び調査成果を公開･活用します。

平成28年度の取組

D（取組）

指標		中野家住宅の所蔵資料の調査と公開				単位	―
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	31	32	
国登録有形文化財「中野家住宅」の寄贈（平成26年度）	目標	中野家住宅の所蔵資料に係る調書を作成、撮影及び整理	中野家住宅の所蔵資料に係る調書を作成、撮影及び整理	中野家住宅の所蔵資料に係る調書を作成、撮影及び整理	中野家住宅の所蔵資料に係る調査報告書作成	中野家住宅の所蔵資料の公開	
	実績	中野家所蔵の歴史資料について、寄贈を受け、調査を開始し、保存処理を実施した					

市内に伝来した歴史資料について、収集・調査・整理、保存・管理、普及・教育活動を実施しました。特に、中野家所蔵の歴史資料については、下記のとおり取り組みました。
・中野家より歴史資料の寄贈を受け、生涯学習課保管室へ運び込み、収蔵しました。
・調査を開始し、概要目録を作成して整理作業に着手しました。
・今後適切に保存するため、炭酸ガスによる包み込み燻蒸を施し、文化財害虫防除処理を実施しました。
・調査による成果から、中野家住宅を構成する建物について、いくつかの来歴が明らかになりました。

文化財害虫防除処理の様子

施策の「5年後の目標」に対する評価

平成28年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向･トレンド	対応頁
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・歴史資料に関する専門知識のある職員及び臨時職員で取り組みました。

課題等

・歴史資料は、地域社会の正しい理解のため、かつ将来の文化の向上・発展の基礎をなすものとして、欠かすことのできないもので、適切に保存するとともに、収集・調査・整理・管理及び活用することで、確実に後世に引き継がなければなりません。また、その整理・活用によって、まちづくりなどにおける政策決定、学校教育・社会教育・生涯学習・観光・地域のコミュニティづくりなどのコンテンツとして、今後の幅広い事業展開に還元できる基礎的役割を担うものです。人材を適切に活用できる環境整備が必要です。
・事業実施には学術的・技能的に専門性の高い人材を不可欠としますが、そうした人材を臨時職員として確保することは困難です。また、専門性のある正規職員は文化財以外の一般業務への従事割合が高くなっており、当該事業の進捗は決して順調とは言えません。

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・地域に伝わる歴史資料は、近年所蔵者の世代交代や価値観の多様化などによる、散逸・破損・劣化が危惧されています。また、地域の歴史・文化に対する市民の学習意欲は年々高まっており、歴史資料の積極的な活用が求められています。 ・中野家所蔵の歴史資料を公開、その成果をコンテンツとして活用できるよう、次年度以降も着実に調査を進展させます。